

## 令和元年度第3回新潟市清掃審議会会議概要

開催日時	令和元年7月12日（金）午前10時～正午	
会場	白山会館 1階 芙蓉	
出席者	出席委員	山賀会長、中澤副会長、西條委員、住吉委員、阿部委員、 井下田委員、石井委員、石本委員、小林委員、鶴巻委員 計10名  (欠席 関谷委員、西海委員、鈴木委員、星島委員)
	事務局	環境部長、循環社会推進課長、廃棄物対策課長 ほか
主な議事	<p>1 開会</p> <p>2 報告</p> <p>(1) 第1回ごみ処理手数料の使途にかかる検討委員会概要</p> <p>(2) 近年のごみ量の推移等について</p> <p>3 議題</p> <p>新潟市一般廃棄物処理基本計画の改定について（審議）</p> <p>(1) 次期計画の基本的事項について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>	
主な議題	<p><b>&lt;審議の進め方&gt;</b></p> <p>それぞれの議題について資料に基づき事務局が説明を行った後、委員からの意見・質問を受け審議を進めた。</p>	

**<報告> (主な質問・意見等)**

**(1) 第1回ごみ処理手数料の用途にかかる検討委員会概要**

<質問・意見等なし>

**(2) 近年のごみ量の推移等について**

- 枝葉・草はどのように資源化しているのか。

市～ 収集したものをチップ化し、最終的に堆肥化している。

**<議題>新潟市一般廃棄物処理基本計画の改定について (審議)**

**(1) 次期計画の基本的事項について**

- 理念を3Rではなく2Rを優先にした理由は何か。

市～ 「ごみ減量」が最大の目標であり理念でもあるから。2R優先としたのは、ごみ減量に向けた具体的な方向性を示した結果である。

- 以前の審議会でも3Rをリデュース、リユース、リサイクルの優先順位で表していたが、今回はないという認識でよろしいか。

市～ 3Rの優先順位の考え方は継続している。ただし、他都市と比べ新潟市はリサイクルが進んでおり、これからはごみを出さないことを強めたいと考えている。

- 発生抑制を第一にするのは同意見である。ただし、「2R優先」という理念になると、リサイクルは特に考えなくてよいのかと考えてしまう。数値目標にもリサイクル率を取り入れる方向であれば、リサイクルを抜かしてはいけないと思う。また、施策の視点を①～⑤にした理由はなぜか。

市～ 5つの視点の重要性をあげていて、①～⑤を優先度として示していない。順番等については、これから委員にご意見をいただきたいと思っている。

- 現在の新潟市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の理念は「市民・事業者・市の協働のもと、ともに作る環境先進都市」であったが、この理念は今回の「2Rを優先した循環社会の形成」の改定案に該当するのか。

市～ そのとおりである。

- 現計画の理念は分かりやすい言葉を使っており、具体的なイメージが湧くが、今回の理念は抽象的でイメージが湧きにくい。また、施策の視点①環境で「3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを推進する」と記述しながらも、理念は「2Rを優先」となっているのは、ギャップがあり分かりにくいと感じた。

市～ 今は理念の考え方としてとらえてほしい。これから施策の後に事業が続く形になり、その都度、委員にご意見をいただきたい。また現計画の「環境先進都市」という言葉が分かりにくいという意見があった。分かりやすい言葉にしていきたい。

- 3R（リデュース・リユース・リサイクル）という言葉が浸透したが、2Rにして1つRが抜けてしまうのは、どのRが抜けてしまったのかが分かりづらい。3Rという言葉がさらに浸透するためにも3Rはそのままよいと思う。

市～ この理念は（仮）と記述してあるようにそのまま使うことは考えていない。2Rを優先したのはごみを出さないことを考えた結果である。市としては、不要なものを出さない生活をどのように作るかを理念の一つにいれたいと考えている。

- これから施策を実施して達成するにあたり、意識啓発や協働が重要になる。意識啓発・支援・安心の数値目標はないのか。

市～ 今のところ個別の数値目標は掲げていない。ごみの中に含まれる割合の高い生ごみ・紙類の減量は重点的な問題として新規に数値目標を設定する予定である。

- 施策がそれぞれどのような目標があるのか示すとよい。環境教育の推進は、どのくらいの人数・学校に環境教育を提供するのかをパーセンテージにして表して目標とし、結果家庭系ごみが減るという仮説をたてることは良いと思う。また、2Rとあるのは環境省が2Rに方針を変えたこともあってのことと思う。循環型社会の形成というのは最終的に3Rにつながるの優先順位は変わらない。市民は2Rと言われても分かりにくいのでどう言い換えるかが課題である。

- 施策7の「低炭素」という言葉を使い続けるのか。環境省では「脱炭素」となっている。新潟市環境基本計画にもつながるので、3Rか2Rか、低炭素か脱炭素かという言葉づかいを考えたほうがよいと思う。

市～ 上位計画とあわせていきたい。

- 令和元年度第2回清掃審議会の資料1の循環型社会のイメージ図がとてもわかりやすい。この図は次期計画書に使う予定はあるか。

市～ 計画書にこの図は使われる予定である。

- 3Rの推進をやめたわけではないということがうまく伝わるような工夫をしたほうがよい。
- 自治会・町内会は古紙の回収に対して市から奨励金をもらっている。そのため、古紙回収をしていることを広報するが、ごみの減量などの呼びかけはやっていないように思える。集団資源回収の申請は簡単にできるが、これからはごみを出さないようにする活動も含めたものにする必要があるのではないか。

市～ 古紙の回収は大事な自治会・町内会の仕事だと思っているので、その報酬として奨励金をお支払するスキーム自体は大切なことだと思っている。ただし、廃棄物行政に関心をもつていただく流れをつくりだすことは今後考えていかななくてはいけない。

- 食品ロスの削減の推進に関する法律では「食品ロス削減計画」の策定が努力義務となる。市は一般廃棄物処理基本計画にまとめる予定であるか。また、時事でプラスチックが問題となっているが、減量する対象を生ごみだけでなくプラスチックの減量を重点施策として入れることは可能性としてあるか。

市～ 食品ロス削減計画は法律として示されたが、具体的な提示がない。具体的の方針が固まりしだい、新潟市一般処理基本計画のなかにたてるか別にたてるか考えていきたい。また、プラスチックに関しては幅広いところもあるので事務局で考えていきたい。米由来のバイオマスプラスチックを使ったごみ袋にも注視していきたいと思う。

- ごみ集積所のごみ袋をみると紙ごみが含まれていることが多く、一般家庭での分別が進んでいないように思える。市から紙ごみを減らす取組をすることによって少しでも減らすことができるのではないか。
- 紙ごみは濡れると悪いと思い、紙を集積できる回収拠点が北区にあり持ち込んでいる。紙は濡れてもよいものなのか。

市～ 紙のリサイクルは濡れていても支障はない。北区に紙を保存するための倉庫があるというのは、自治会・町内会の集団資源回収で市から補助を受けて倉庫を設置しているものである。

- ごみを出させないことが第一で、それがあってのリサイクルという優先順位はそのとおりだと思う。また、週3回の燃やすごみ回収は多いと思うので週2回でもよい。回数が減るとごみを減らそうとするから、回数を減らすことが有効であると思う。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プラスチックごみが増えているので、プラスチックごみについてもこれから意識がいくように、計画に文言を入れたり意識を持っていくようにしたりすることが必要になると思う。</li> <li>○ 雑がみについて、シュレッダーにかけていいのかわからないことがある。捨て方など一言記載すると少しでも減量につながると思う。</li> </ul> <p>市～ ごみ分別百科事典・サイチョプレス・ごみ収集カレンダーなどで雑がみの出し方を啓発したい。</p>
傍聴者	1名